



青島の風

青島日本人学校だより
平成 30 年 7 月 6 日
校 長 金森 孝子

本の力、物語の力

いっぴきの でんでんむしが ありました。
ある ひ その でんでんむしは たいへんな ことに きが つきました。
「わたしは いままで うっかりして いたけれど、わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるでは ないか」
この かなしみは どう したら よいでしょう。
でんでんむしは おともだちの でんでんむしの ところに やって きました。
「わたしは もう いきて いただけません」と その でんでんむしは おともだちに いいました。
「なんですか」と おともだちの でんでんむしは ききました。
「わたしは なんと いう ふしあわせなものでしょう。わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるのです」すると おともだちの でんでんむしは いいました。
「あなたばかりでは ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱいです」(後半略)



出典「でんでんむしのかなしみ」新美南吉

梅雨の時期になると、「でんでんむし」が主人公のこの物語を、よく、教室の子どもたちに読み聞かせしました。今年度、6月の朝会は、ちょうど「朗読の日」(6月19日、六十九(ろうどく))。鎌倉にある「紫陽花寺」の写真と本の挿絵を示しながら、この物語を読みました。この「でんでんむしのかなしみ」は、皇后美智子様が、国際児童図書評議会の場で、子どもどころ「何度となく、思いがけない時に記憶によみがえって」きた物語であることを講演の中でお話された物語です。また、作者の新美南吉さんは、小学4年の国語教材「ごんぎつね」の作者です。(「ごんぎつね」の結末は、「ごん」が「つぐない」をしていた兵十に撃たれてしまうという悲しい物語です。) この物語は、登場人物の悲しみがテーマですが、ユーモラスなところもあり、人々の心の奥に伝える何かがあります。



7月5日(木)、PTAの読み聞かせボランティアの方々が、図書館で「なつのおたのしみ会」を開催してくださいました。クッキーにまつわる英語のお話、カレーライスの木のお話、そして、影絵ブレーメンの音楽隊。小学部中学部すべての子どもたちが聴き入り、まるで図書館全体がお話の世界に引き込まれているようでした。演じてくださった方々の力もありますが、改めて本や物語の力を思い知られた次第です。これからも保護者の方々と共に、本を物語を通して、子どもたちの心に触れる大切な何かを伝えていきたいと思ひます。

本校の英会話の取り組み

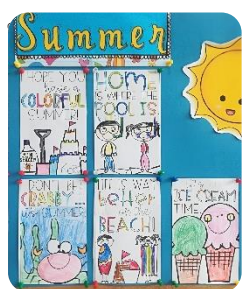
英語科 吉浦 梓

本校では「使える英語の習得」を目指して、日々取り組んでいます。どの学年もアリ先生のウクレレに合わせて歌を歌ったり、時には体を動かしたりしながら、楽しい雰囲気です授業を行っています。

小学部1～2年では、動物や食べ物などの簡単な英語を聞いてまねをしたり、3～4年では、映像を見ながら世界の国について話をしたり、5～6年では、自分の町や自分自身のことを発表したりしています。

中学部では、“映画や有名人、他国の文化”などをテーマに、自分の意見を言ったり、コラムを読んで感想を言ったりしています。

これからもたくさん英語を使ってクラスメートとコミュニケーションをとり、楽しみながら英語を身につけてほしいと思ひます。



小学部 5年宿泊体験学習

小学部 5年担任 西村 拓也

6月20日～22日にかけて、小学部5年生は日系企業3社様にご協力頂き、3日間の宿泊体験学習を行いました。青島月星靴業様では、靴のアップパー（上部分）がどのように作られているかを見学しました。自分たちの知っている靴が流れ作業で作られていく様子に子どもたちは興味津々。特に不良品と良品の見分けを行う検査体験では、その細かい違いにみな驚いていました。



新日清制粉食品（青島）様では、唐揚げ粉や天ぷら粉などの色々な粉が製造される工程の見学ならびに、調理体験をさせていただきました。子どもたちは、金属などの異物混入を防ぐ検査のシステム、その検査の数の多さに驚き、「徹底して異物混入を防ぐ、絶対に間違いは起こさない。」という食品を扱う仕事の責任の重さを感じていました。そして、お待ちかねの調理体験では、美味しいドーナツとマフィン、天ぷらうどんを作って、お腹いっぱい頂きました。

山東朝日緑源農業高新技術様では、2日間に渡り、牛乳工場や農場の見学、農作物の収穫などをさせていただきました。「3日目の農作業がものすごく暑かった。私たちよりも年上、年配の人が毎日農作業をしていると思うと、すごいなと思った。」と児童の振り返りにあったように、毎日毎日、地道に農作業を行うその苦勞、そして、その苦勞があるからこそ美味しく、安心・安全な野菜ができると、子どもたちは、実感していました。

5年生の子どもたちにとって、初めての宿泊行事、自分たちで決めた「たこやき」（助け合う、心を合わせる、約束を守る、きびきび動く）をスローガンに、実り多い3日間を過ごすことができました。



中学部 修学旅行

中学部担任 小谷 勇人

6月26日～29日にかけて、中学部の生徒全員で4日間の修学旅行に行きました。行き先は、かつて長安と言われた都である西安です。今年度より、中学部全体として行く初めての修学旅行です。異学年で揃って行くからこそ、事前に西安について調べ学習を行ったり、生活の決まりや様々な学年が色々関わられるように工夫をしたりと自分の学年だけで行く以上の責任感を大事に準備を行いました。西安市内は歴史情緒溢れる街並みで、青島とはまた違う魅力に溢れる都市でした。

修学旅行から帰って来て、生徒たちにどの見学地が一番印象に残ったかを聞いた所、秦の始皇帝に関わる兵馬俑の大きさを挙げた生徒、みんなで炎天下の中行った西安市内の城壁のサイクリングを挙げた生徒、青龍寺の空海や遣唐使として派遣された阿倍仲麻呂に関わる見学地を訪ねることで感じた日本とのつながりを感じた生徒など、様々でした。それぞれの思い出が中学部全体の絆を高めたと感じました。特に、悠久の歴史が流れる西安に遣唐使を中心に様々な日本人が関わっていたことは生徒たちの心に深く刻まれたようです。

今後も、中学部では「日本と中国のつながり」をテーマに様々な学習を進めていきます。

